【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成20年9月18日(2008.9.18)

【公開番号】特開2007-209230(P2007-209230A)
【公開日】平成19年8月23日(2007.8.23)
【年通号数】公開・登録公報2007-032
【出願番号】特願2006-30674(P2006-30674)
【国際特許分類】
Ａ２３Ｊ　3/10　(2006.01)
Ａ２３Ｊ　3/30　(2006.01)
Ａ２３Ｌ　1/30　(2006.01)
Ａ２３Ｌ　2/52　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ２３Ｊ　3/10
Ａ２３Ｊ　3/30
Ａ２３Ｌ　1/30　Ａ
Ａ２３Ｌ　2/00　Ｆ

【手続補正書】
【提出日】平成20年8月4日(2008.8.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
カゼイン加水分解物含有造粒物は、平均粒子径が５０μｍ以上である必要があり、５０～１３０μｍがより好ましく、５０～１０５μｍがさらに好ましい。平均粒子径が５０μｍ以上であることにより、沈降性と溶解性とを両立でき、しかも高い蛋白質含量の造粒物が得られる。
カゼイン加水分解物含有造粒物は、その粒度分布において、粒子径が３０μｍ以下の粒子の割合が低いほど、本発明の効果に優れるため好ましい。
カゼイン加水分解物含有造粒物中、粒子径が３０μｍ以下の粒子の割合は、０～２５質量％であることがより好ましい。
カゼイン加水分解物含有造粒物の平均粒子径や粒度分布は、たとえば造粒方法やその造粒条件、たとえば後述する流動層造粒装置の操作条件（吹込み風量、吹込み温度、噴霧液量、噴霧流量、排風温度、ダンパー開度等）、結着剤の種類や量などを調節することにより調節できる。